



## 附属名物、たけのご飯

今年度の年長さんの本格的な活動が始まりました。早速、先月 24 日 (月) に、響流の森でのたけのご掘りが始まりました。皆様ご存知のたけのごで有名は京都は、刺身にしたり、焼いたりして食べるために、まだ土から顔を出すか出さないような柔らかいたけのこを 3 月下旬に掘り出しています。園としても、4 月下旬は、ちょっと遅いかなと考えてはいますが、子どもたちが園生活に慣れてからということで、毎年、この時期に実施しています。

そのために、まず、各クラスとも、本園のたけのご掘りを題材にした絵本の読み聞かせをし、子どもたちの意欲を高めます。次に、事前に、担任が下見をし、どのたけのこが食べ頃かをチェックし、掘り出すたけのこに印を付けています。

そして、子どもたちは、印の付いたたけのこを、グループごとに協力して子ども用のスコップで掘り出します。しかし、地下茎と繋がったところは切り離すのが難しいので、大人の出番です。初めてたけのご掘りを経験する子どもが多く、子どもたちは、楽しそうに掘っていました。今年のは、そんなに伸びてなくて、土から少し顔を出したものが多く、柔らかそうなものばかりでした。時期的には、ちょうどよかったのかもしれませんが。最後に大人の手で掘り出す時も、そんなに力を入れずに掘り出すことができました。

### 初めての包丁さばきにおっかなびっくり？

次に、取り出したたけのこを担任が湯がき、子どもたちは、食べる大きさに切る作業です。初めて包丁 (子ども用の包丁で、大人用の包丁ではありません) を使う子どもは、恐々としながらも、担任の指導により、切り傷ひとつ負わず、上手に切っていました。たけのこを切る時の顔は、真剣そのもので、普段、ジョークを飛ばす子どもでも黙って、たけのこを見つめ、切っていました。



## たけのご飯のお裾分け

適当な大きさに切ったたけのこを用いて、いよいよたけのご飯づくりです。しかし、簡単には、ご飯には行きつきません。その前に、お米を洗い、お米を研ぐ作業が待っています。子どもたちは数日間に数々の体験をします。自分が幼かったときの頃、こうした活動は一切ありませんでした。包丁を使う → 米を洗う → 米を研ぐ → 米を炊くといった一連の体験活動は、子どもたちに生きる力の基礎を培う上で、必要な活動であると思っています。

出来上がったたけのご飯を、年中や年少の全クラスにお裾分けし、みんなから感謝されていました。

年長はもちろんですが、年中さんの中には、あまりにも美味しいために、おかわりをする子どももいました。兎に角、いい味の美味しいご飯でした。

## 愛情がこもった初めてのお弁当



25 日 (火)、年少さんにとって初めてのお弁当の日です。お母さんの手作りもあれば、お父さんの工夫を凝らしたお弁当もありました。年少の子どもたちは、ニコニコ笑顔で、ご飯を口いっぱい頬張っていました。子どもたちは、ご両親が作ってくれた弁当が一番大好き、一番美味しいのでしよう、私や教頭が、様子を見て回ると、異口同音に「見て、見て！」の連呼です。

おにぎり有り、サンドウィッチ有り、細工した海苔が付いたおにぎり有りなど、ご家庭のそれぞれの工夫を凝らしたお弁当でした。

保護者の皆様、お疲れ様です。しかし、保護者の皆様が手を掛けた分、愛情が籠っていますから、子どもたちは、心の中にいつまでも感謝の気持ちを持つことと思います。

保護者の皆様、お疲れ様です。しかし、保護者の皆様が手を掛けた分、愛情が籠っていますから、子どもたちは、心の中にいつまでも感謝の気持ちを持つことと思います。